

# 湘南国際村活性化検討委員会 報告（案）

平成 3 1 年 1 月

## まえがき

湘南国際村は、平成6年の開村以来、国際交流拠点としての役割を果たしてきた。

しかし、村内の人口減少や高齢化が進んでいるほか、来村者数の減少などの課題があり、将来を見据え、活性化に向けた取組みが必要となっている。

また、「海」や「食」などの魅力を生かして三浦半島地域の活性化を図っていく上で、湘南国際村は三浦半島の中心部に位置しており、周遊の拠点となりうる場所である。

こうした状況の中、本検討委員会では、村全体の魅力を高め、活性化する方策等について検討してきた。

本報告は、今後、民間活力も活用しながら、湘南国際村ににぎわいを生み出していくことで、三浦半島全体の活性化にもつなげていくために、その基本的な方向性などをとりまとめたものである。

平成31年1月  
湘南国際村活性化検討委員会

## 目 次

1. 既定計画による湘南国際村の理念と村づくり	1
(1) 基本構想による理念・村づくりの基本方針(昭和 60 年)	1
(2) 基本計画による具体的な考え方(昭和 63 年、平成 18 年改訂)	1
2. 現行の基本計画の検証および湘南国際村の現状・課題	4
2.1 現行の基本計画の検証	4
2.2 湘南国際村の現状	6
(1) 人口減少(A 地区)	6
(2) 高齢化(A 地区)	7
(3) 交通(A 地区)	8
(4) 商業施設(A 地区)	8
(5) 医療機関(A 地区)	8
(6) 来村者数(A地区、BC地区)	9
(7) 湘南国際村センター利用者数(A 地区)	9
(8) BC地区の活用(BC地区)	10
(9) 情報発信(A地区、BC地区)	10
(10) 村内外の連携(A地区)	10
2.3 湘南国際村が抱える課題	11
(1) 共通の課題	11
(2) 地区別の課題	11
3. 基本的な方向性(ビジョン・コンセプト)	12
4. 強化すべき機能と具体的な取組例、提案等(施策・コンテンツ)	13
4.1 強化すべき機能	13
(1) 国際交流拠点機能(主に A 地区)	13
(2) 自然環境を生かした交流機能(主に BC 地区)	13
(3) 三浦半島における周遊拠点機能(主に A 地区)	13
(4) 魅力創出・発信機能(A 地区、BC 地区)	13
4.2 具体的な取組例、提案等(施策・コンテンツ)	14
(1) 国際交流拠点機能(主に A 地区)	14
・ インターナショナルスクールなど、外国語教育を核とした「国際村」確立	
・ MICE 機能強化による国際交流拠点としての充実	
・ 「国際村」意識の高揚	
(2) 自然環境を生かした交流機能(主に BC 地区)	14
・ 自然を活用したレクリエーション	

・ 自然環境と芸術の共生	
・ 自然環境の活用	
・ アクティブスポーツ設備の整備	
・ 未病施策との連携	
(3) 三浦半島における周遊拠点機能(主に A 地区) . . . . .	15
・ 交通の拠点として地域価値を向上	
・ ゴルフ場との連携	
(4) 魅力創出・発信機能(A 地区、BC 地区) . . . . .	16
・ 最新技術やサービス導入で最先端の街づくり	
・ 学術研究、技術交流機能の強化	
・ 「健康村」の創出	
<b>5. 活性化の実現に向けた取組みの進め方 . . . . .</b>	<b>20</b>
(1) 進め方 . . . . .	20
(2) 事業スケジュール . . . . .	20

## 1. 既定計画による湘南国際村の理念と村づくり

### (1) 基本構想による理念・村づくりの基本方針（昭和60年）

県は、昭和58年1月に横須賀市、葉山町及び有識者等とともに湘南国際村の構想の検討に着手し、昭和60年3月に「湘南国際村基本構想」（以下「基本構想」という。）を策定した。

この基本構想において、湘南国際村の目的と意義を「湘南国際村は、国際的視野に立脚した学術研究、人材育成、技術交流、文化交流の推進という相互に関係の深い四つの基本的目的を持ち、多様な交流を展開することにより、国際社会に貢献するとともに、地域社会の発展に寄与する多目的な滞在型の国際交流拠点とする。」と位置付けている。

### (2) 基本計画による具体的な考え方（昭和63年、平成18年改訂）

当初基本計画（昭和63年3月策定）が改訂されるまでの経緯は、次のとおり。

- ・ 昭和60年 湘南国際村基本構想を策定
- ・ 昭和63年 当初の湘南国際村基本計画を策定

A地区	「村のイメージを早期に形成するシンボル地区」
B地区	「村全体の交流の中心地区」
C地区	「大楠山の緑を活用した地区」

- ・ 平成元年 株式会社湘南国際村協会が設立
- ・ 平成6年 湘南国際村センターが完成し、湘南国際村が開村
- ・ 平成8年 まちづくりを将来にわたって法的に担保するため、建築物の用途の制限などを定めた地区計画を横須賀市及び葉山町がそれぞれ決定

湘南国際村の基本構想策定から20年以上が経過し、バブル経済の崩壊後の社会経済状況の変化や企業活動、研修施設に対する企業意識の変化等、湘南国際村を取り巻く環境が大きく変化していた。

また、研究・研修施設や商業施設の立地が進まない状況となっていた。

そこで、平成18年に当初の基本計画を次のとおり改訂した。

#### 【概要】

基本構想の理念を堅持しつつも、国際交流を深めるとともに、村内に居住する住民、村で働く就業者への生活支援、あるいは生活利便性の向上に必要な新たな展開を図ることにより、湘南国際村の早期熟成と湘南国際村事業の完了、さらに、将来にわたる国際交流拠点としての継続を目指す。

[A地区]

「村の理念を実現する地区」として新たに位置付け、B地区及びC地区で計画していた交流機能をA地区へ集約し、湘南国際村機能の充実を図るほか、既存緑地に隣接する地区を「教育・健康・福祉施設地区」とし、教育、スポーツ、医療、福祉施設等を許容するなど、土地利用計画を見直した。

[B・C地区]

「大楠山の緑を活用した地区」と位置付け、緑の再生と保全を図り、村内居住者や来村者が憩い、安らぎ、学び、交流するとともに、健康を育む場としての緑の空間の創造と、緑陰滞在型の国際交流拠点としての機能向上を高める地区とした。

こうした基本計画の改訂を受けて、横須賀市が地区計画を変更した。

## (参考) 現行の基本計画等のイメージ図

### ① 構想 <目指すすがた> = 「基本構想」 S60

- ・ 国際的視野に立脚した「学術研究」「人材育成」「技術交流」「文化交流」という相互に関係の深い四つの基本的目的を持ち、多様な交流を展開することにより、国際社会に貢献するとともに、地域社会の発展に寄与する多目的な滞在型の**国際交流拠点**とする

### ② ビジョン (コンセプト) <構想を実現するための具体的な考え方 (方針) > = 「基本計画」 S63、「改訂基本計画」 H18

- ・ A 地区の方針 = 「湘南国際村機能の充実を図る」「国際交流拠点として**将来にわたって持続していくようなまちづくり**を目指す」  
機能の位置付け 「研究・研修機能」「居住機能」「商業・業務機能」「教育・健康・福祉機能」「公共公益機能」
- ・ BC 地区の方針 = 『大楠山の緑を活用した地区』と位置づけ、**緑の再生と保全**を図り、村内居住者や来村者が**憩い、安らぎ、学び、交流する**とともに、**健康を育む場**としての緑の空間の創造と、緑陰滞在型の国際交流拠点としての機能向上を高める」  
機能の位置付け 「防災機能」「交流機能」

### <土地・建物の枠組み> = 「地区計画」 (横須賀市、葉山町)

- ・ 横須賀市 = 「研究・研修施設地区」「生活支援施設地区」「住宅地区」「商業・業務地区」「公共公益施設地区」
- ・ 葉山町 = 「研究・研修施設地区」「商業・業務施設地区」「公共公益施設地区」

### ③ 施策 (コンテンツ) <具体的な取組み> = 個別の事業

## 2. 現行の基本計画の検証および湘南国際村の現状・課題

現行の湘南国際村基本計画は平成 18 年に改訂されたものだが、湘南国際村の活性化を検討するために、まず、現行の基本計画において、どのような成果があったのかを検証する必要がある。

その上で、湘南国際村を取り巻く現状や、湘南国際村が抱える課題を整理する。

### 2.1 現行の基本計画の検証

前回（平成 18 年）の改訂後の主な歩みは、次のとおり。

#### [A 地区]

- ・ 基盤整備が整い、研究・研修機関等の立地が概ね完了し、多くの企業研修や学会、国際会議が開催  
（例）湘南国際村センターにおける国際会議：平成 20～29 年の 10 年間で 260 件
- ・ 福祉施設等の立地が可能となった地区に、2 つの福祉施設が立地
- ・ 消防署等の立地が可能となった地区に、横須賀市消防局南消防署の湘南国際村出張所が整備
- ・ 店舗等の立地が可能となった地区に、コンビニエンスストア等が立地
- ・ 店舗兼住宅等の立地が可能となった地区に、店舗兼住宅が立地
- ・ 宅地の区画が整備され、住宅の建設が開始
- ・ 自治会館が整備
- ・ 逗子駅から湘南国際村を経由して佐島方面に向かうバスが平成 20 年に新設  
横浜駅から湘南国際村を経由して横須賀方面に向かうバスが平成 18 年に新設され、その後、増便

#### [B 地区・C 地区]

- ・ 基盤整備が整い、民間事業者から県に無償譲渡され、県有地となる
- ・ 「緑の再生と保全」の場として、植樹活動や里山保全活動などの取り組みが開始
- ・ 大楠山に至る横須賀市道が整備され、登山ルートとなる

#### 【取り組むことができた理由】

- ・ 平成 18 年の時点で A 地区の事業用地に空きがある中、B C 地区の研修施設の建設需要が見込めなかったことから、B C 地区に予定していた機能を A 地区に集約した上で、A 地区において研修施設に限定されていた土地の用途規制を見直し、福祉施設等の立地を可能としたため。
- ・ 住民から要望の強かったバス便の改善に向けて事業者にも要望の上、調整を重ねたため。



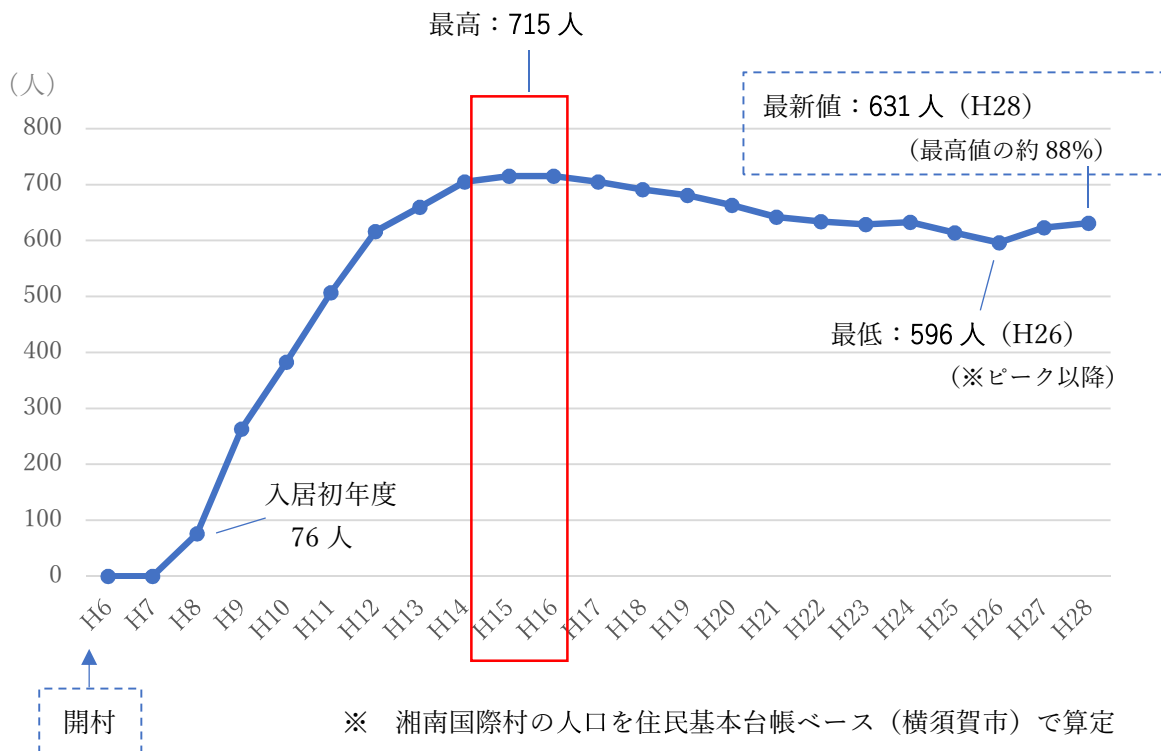


## 2.2 湘南国際村の現状

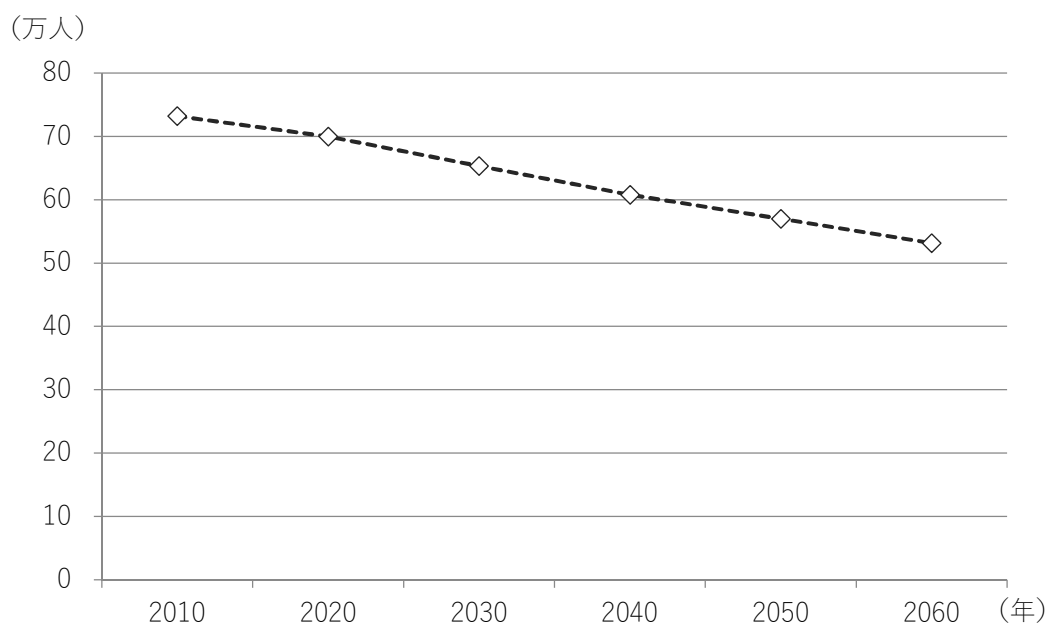
### (1) 人口減少 (A地区)

湘南国際村の人口は、平成15年、16年をピークに減少傾向にあり、三浦半島全体で今後も減少が続くと予想されている。

#### (参考1) 湘南国際村の人口の推移



#### (参考2) 三浦半島の人口の推移

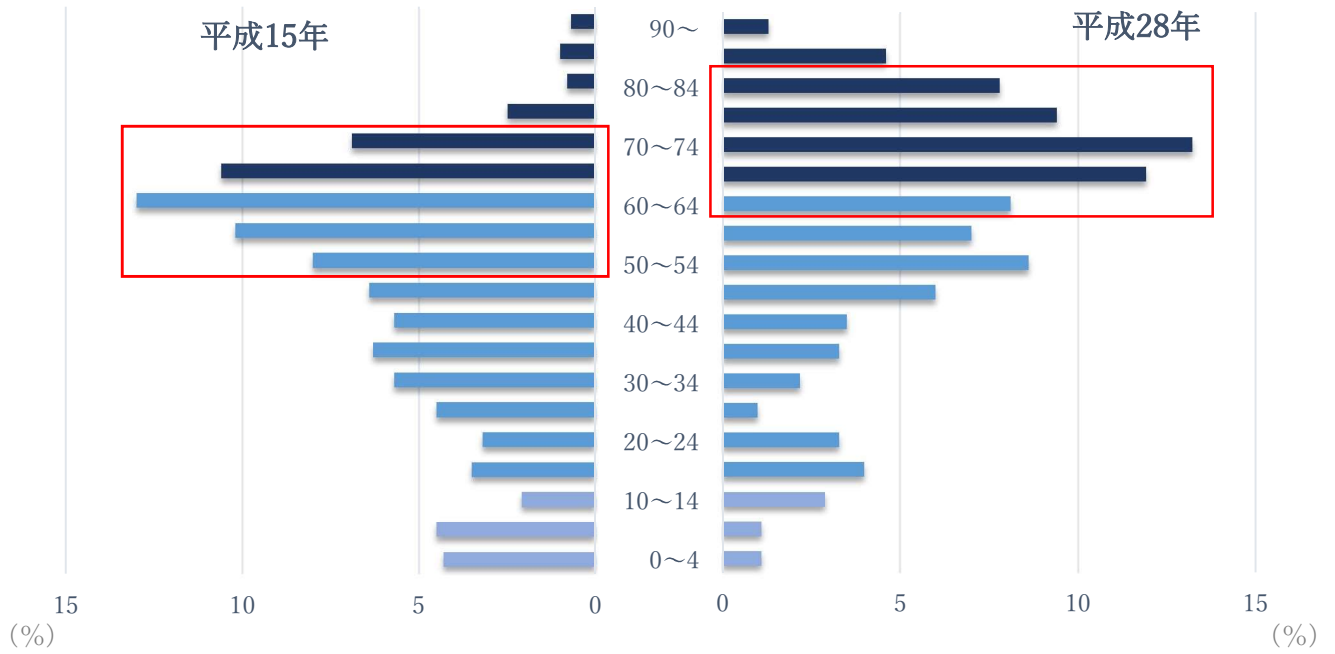


※ 平成28年3月 かながわ人口ビジョンより抜粋

## (2) 高齢化 (A地区)

人口のピークだった平成15年と比べると、十数年の間に高齢者の割合が増加しており、40歳代前半から下の世代の割合が減少している。

### (参考3) 人口ピラミッド



※ 湘南国際村の人口を住民基本台帳ベース（横須賀市）で算定

#### 【こうした現状に至った理由】

- 三浦半島全体で人口減少、高齢化の傾向にある中、湘南国際村では、物件の価格帯等から、そもそも入居時の年齢が高かった。また、交通が不便である等の理由で子ども世代が転居するなどして、人口減少、高齢化が進んだと思われる。

#### ～ 住民アンケート等の声 ～

- 国際村憲章に惹かれて住んでいる。今後とも緑あふれる国際交流拠点という村の基本的な考え方は堅持してほしい。
- 高齢者用の住宅や、福祉施設等ができればありがたい。
- 若い世代と高齢者が共生できる村になってほしい。

### (3) 交通 (A地区)

- ・ 逗子駅から湘南国際村センターへのバスが朝夕でも1時間に2本程度で、京急汐入駅から湘南国際村センターへのバスは運行が全くない時間帯もある。
- ・ バスは住民の通勤・通学のほか、研修者、従業員の足となっているが、研修が終了する夕方の時間帯などではバスが満員状態になり、乗り切れないケースも発生している。
- ・ 少ない本数の中で、バスのダイヤが重なっている時間帯がある。

### (4) 商業施設 (A地区)

- ・ 平成8年からスーパーマーケットが営業していたが、平成25年に閉店した。その結果、湘南国際村内の商業施設はコンビニエンスストアのみとなり、日用品の買い物は、バス又は自家用車を利用して近隣のスーパーマーケットに行かざるを得ない状況となっている。

### (5) 医療機関 (A地区)

- ・ 週一回診察していたクリニックが平成30年3月に閉院し、これまでよりも遠くの医療機関に頼らざるを得ない状況となっている。

#### 【こうした現状に至った理由】

- ・ 交通、商業施設、医療機関は民間事業者が行うものであり、利用者数が少ないなど経済的な合理性がなければ事業継続あるいは拡張が困難であったため。

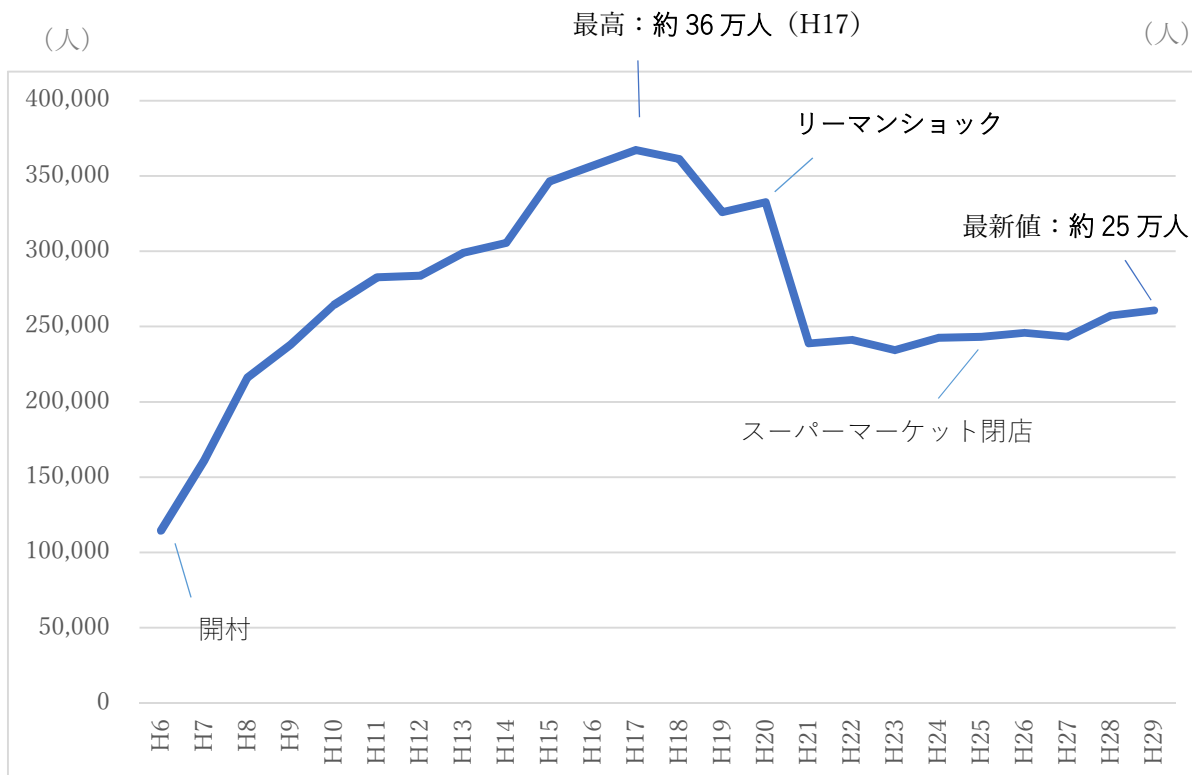
～ 住民アンケート等の声 ～

- ・ 医療施設や交通手段、買い物、公共設備が整えば、自然に恵まれた地を離れることなく永住したい

## (6) 来村者数 (A地区、BC地区)

来村者数のピークは平成17年の約36万人だったものの、リーマンショックの後に減少し、約25万人前後で推移している。

### (参考4) 湘南国際村の来村者数



## (7) 湘南国際村センター利用者数 (A地区)

湘南国際村センターの利用者数がリーマンショック前に比べて減少した後、横ばい状態が続いている。

### 【こうした現状に至った理由】

- 来村者数、湘南国際村センター利用者数の減少は、宿泊研修需要の減少の影響と推測される。

～ 住民アンケート等の声 ～

- 国内外を問わず多くの人々が訪れたい、魅力ある環境を作ることが必要である。人が集まれば活性化していく。

## (8) BC地区の活用 (BC地区)

植樹活動や里山保全活動などが進んでいるものの、活用が十分進んでいない状況である。

### 【こうした現状に至った理由】

- ・ BC地区は、アスファルト舗装された横須賀市道以外は「原則立入禁止」の場所であり、NPO等による交流活動として植樹活動や里山保全活動等が実施されているものの、交流の場としての活用が十分でないため。

～ 住民アンケート等の声 ～

- ・ 自然を多くの人々が満喫できるようにする。
- ・ めぐりの森を自然と触れ合える場所にしてほしい。

## (9) 情報発信 (A地区、BC地区)

湘南国際村を紹介するホームページがあるが、村の魅力を伝えるために、さらに発信力を強化する必要がある。

## (10) 村内外の連携 (A地区)

湘南国際村の入村機関相互の連携のほか、入村機関と住民、村外機関との更なる連携が求められる。

### 【こうした現状に至った理由】

- ・ 湘南国際村全体が観光地ではなく、基本的には各企業の研修施設の集まりであり、各施設が自己施設で事業を完結でき、広く一般の方を呼び込む必要がなかったため。
- ・ 村内外の連携が進まなかったのは、情報発信と同様、湘南国際村が基本的には各企業の研修施設の集まりであり、各施設が自己施設で事業を完結でき、他の施設等と連携しなくても成立する施設が多いためことが挙げられる。

～ 住民アンケート等の声 ～

- ・ インターネットで検索しても、村の全体像などが分からない。
- ・ 他の施設の情報が共有されていないため、お互い何をしているのか分からない。

## 2.3 湘南国際村が抱える課題

### (1) 共通の課題

2.2「湘南国際村の現状」を整理すると、次の「共通の課題」がある。

#### ① 生活環境の向上

村の人口減少、高齢化が進んでおり、交通、商業施設、医療機関などの問題の解決が求められる。(2.2「現状」の(1)～(5)に関連)

#### ② 交流人口の増加

宿泊研修需要の減少などによる来村者数の減少が進んでおり、情報発信や村内外の連携などにより、国際交流拠点機能に加え、更なる取組みが求められる。

(2.2「現状」の(6)～(8)に関連)

#### ③ 三浦半島全体との連携

交流人口の増加のためには、村内の連携だけでなく、湘南国際村がその中心部に位置する「三浦半島全体」との連携が求められる。

(2.2「現状」の(10)に関連)

#### ④ 神奈川県、横須賀市、葉山町の政策との連携

村内外の連携をさらに推進し、交流人口を増加させるためには、「国際交流」に限らず神奈川県、横須賀市、葉山町が行っている政策との連携が求められる。(2.2「現状」の(10)に関連)

#### ⑤ 中核施設の活性化

情報発信や村内外の連携をさらに推進し、交流人口を増加させるためには、拠点となる場所や担い手が必要であり、村の中核施設の活性化が求められる。(2.2「現状」の(7)(9)(10)に関連)

### (2) 地区別の課題

A地区では、生活環境の改善や国際交流拠点機能の強化が必要である。

B C地区では、自然環境を生かした交流機能の強化が必要である。

---

これらの課題に対応するため、湘南国際村の活性化及び持続的な発展に向けて、三浦半島全体の中での位置付け、県・横須賀市・葉山町の政策との連携、民間活力の活用等の観点から、湘南国際村の10年後、20年後を見据えて、中長期的な視点をもって今から対策を考えていくことが重要である。

このような観点から、湘南国際村活性化検討委員会では、主に中長期的な取組みについて検討を進めてきたところであり、検討委員会の議論において、湘南国際村の活性化のために必要とされた基本的な方向性について、次の項目で整理する。

### 3. 基本的な方向性(ビジョン・コンセプト)

2. 3 (1)「共通の課題」を解決するために、湘南国際村の基本構想である「緑陰滞在型の国際交流拠点」としての理念は引き続き堅持しつつ、次のような基本的な方向性を目指すべきである。

#### ①「生活環境の向上」と「交流人口の増加」

##### －住む人、訪れる人、働く人を大事に－

湘南国際村の魅力を向上させると同時に、発信力を強化することで、三浦半島の他地域と連携しながら交流人口を増やす。それによって民間投資を促進し、サービスの提供や生活環境の向上につなげる、という好循環を生み出す。

#### ② 三浦半島全体の活性化

三浦半島魅力最大化プロジェクト等の取組みと連動させ、湘南国際村ににぎわいを生み出すことで、三浦半島全体の活性化にもつなげる。

#### ③ 神奈川県・横須賀市・葉山町の政策の連携

三浦半島魅力最大化プロジェクト等に加え、SDGsや未病改善など、県、横須賀市、葉山町が行っている政策と、村内で行う事業との連携を強化する。取組みに当たっては、産学公の連携に加え、住民が提案し行動する取組みを促進するなど、多様なプレイヤーが相互に連携協力しながら進めていく。

#### ④ 湘南国際村センターの更なる活用

湘南国際村の中核施設として、県民等の更なる利用を促進するとともに、県が所有する研究棟について、新たな視点で活用を図る。



## 4. 強化すべき機能と具体的な取組例、提案等(施策・コンテンツ)

### 4.1 強化すべき機能

2. 3 「湘南国際村が抱える課題（共通・地区別）」を踏まえ、「3. 基本的な方向性」を実現するために、今後、次の機能を強化すべきである。

#### (1) 国際交流拠点機能（主にA地区）

湘南国際村の基本構想に掲げた「緑陰滞在型の国際交流拠点」としての機能を一層強化するため、MICE（国際会議等）や外国語教育機関等の誘致を目指す。

#### (2) 自然環境を生かした交流機能（主にBC地区）

引き続きBC地区の自然環境の再生と保全に取り組むとともに、自然を生かした芸術、スポーツ、レクリエーション機能を強化するなど、緑の交流機能を高め、「全体が緑豊かな公園のような村」を目指す。

#### (3) 三浦半島における周遊拠点機能（主にA地区）

三浦半島の中心部に位置する強みを生かし、葉山、横須賀、逗子、鎌倉、三浦といった観光地を周遊する拠点機能の実現を目指す。

#### (4) 魅力創出・発信機能（A地区、BC地区）

最先端技術やサービスの導入、技術交流の促進などにより新たな魅力の創出を目指す。

また、国際交流拠点としての魅力に加え、相模湾と富士山を臨む眺望、静謐な住環境といった湘南国際村のよさが十分に伝わるよう魅力発信機能の強化を目指す。

こうした魅力創出・情報発信機能の強化により、交流人口の増加を図るとともに、生活環境の向上につなげ、住む人、訪れる人、働く人にとってさらに魅力的な街づくりを目指す。

## 4.2 具体的な取組例、提案等(施策・コンテンツ)

### (1) 国際交流拠点機能 (主にA地区)

- インターナショナルスクールなど、外国語教育を核とした「国際村」確立
  - ・ インターナショナルスクール誘致
  - ・ 外国語のテーマパーク
  - ・ 外国語村として学生ショートステイ
  - ・ 国内で外国語体験(ミニ留学)
  
- MICE機能強化による国際交流拠点としての充実
  - ・ アフターコンベンション機能
  - ・ ナイトタイムエコノミー機能
  - ・ 横浜・横須賀地区等とのMICE連携
  
- 「国際村」意識の高揚
  - ・ 外国語表記でのサイン看板

### (2) 自然環境を生かした交流機能 (主にBC地区)

- 自然を活用したレクリエーション
  - ・ 星空学校、天体観測キャンプ
  - ・ キャンプ、収穫体験できる林間学校
  - ・ ウォーキングコースの整備
  - ・ 大楠山を中心としたハイキング、公園など、三浦半島回遊観光の一環として施設を整備。既存設備との宿泊型回遊観光も(花の公園、芝生広場、フィールドアスレチック等)
  - ・ フォレスト・アドベンチャー施設(自然体験型レクリエーション)
  - ・ グランピング施設
  - ・ 「陸」と「海」のスポーツの連携による別荘地のように余暇を過ごす場
  
- 自然環境と芸術の共生
  - ・ 自然+アート+健康の野外散策美術館
  - ・ アーティストinレジデンス(宿泊棟も活用)
  - ・ アートを通じた生涯学習
  
- 自然環境の活用

- ・ ドッグランを併設した芝生公園
  - ・ イヤホン装着型による野外映画館
  - ・ 屋外コンサート会場
  - ・ 鳥類を呼ぶための計画的な植樹
  - ・ 自然樹木葬と市民農園で里山整備
  - ・ 日本版ギブ・キッズ・ザ・ワールド
  - ・ 週末裏山解放区
- アクティブスポーツ設備の整備
    - ・ フィールドアスレチック施設
    - ・ スケートボード施設
    - ・ BMXコース施設
    - ・ サッカーグラウンド、フットサル
    - ・ スポーツクラブ
  - 未病改善施策との連携
    - ・ 森林ヨガ
    - ・ 未病の情報発信に取り組む拠点施設「ビオトピア」（大井町）との連携

<協働参加型めぐりの森づくり推進会議からのご提案・ご意見>

- ・ 用途制限の緩和による活動の拡充
- ・ めぐりの森の散策路の整備
- ・ 県の自然環境保全センター三浦半島出張所の設置

### **(3) 三浦半島における周遊拠点機能（主にA地区）**

三浦半島の中心部に位置する強みを生かし、葉山、横須賀、逗子、鎌倉、三浦といった観光地を周遊する拠点機能の実現を目指す。

- 交通の拠点として地域価値を向上
  - ・ ヘリポート設置（緊急医療、観光、外国VIP待遇）
  - ・ 「自転車の聖地」ブランド化（自転車の駅）
  - ・ ゲートウェイ型「道の駅」での交流、情報発信（モーダルコネクト）
- ゴルフ場との連携
  - ・ ゴルフ場隣接のショートステイ型リゾートマンション
  - ・ ショップとゴルフツアーでリゾートヴィレッジ
  - ・ 世界トップクラスのホテルを誘致し、超一流のゴルフ場リゾート&スパを目指す

#### (4) 魅力創出・発信機能 (A地区、BC地区)

最先端技術やサービスの導入、技術交流の促進などにより新たな魅力の創出を目指す。

また、国際交流拠点としての魅力に加え、相模湾と富士山を臨む眺望、静謐な住環境といった湘南国際村のよさが十分に伝わるよう魅力発信機能の強化を目指す。

こうした魅力創出・情報発信機能の強化により、交流人口の増加を図るとともに、生活環境の向上につなげ、住む人、訪れる人、働く人にとってさらに魅力的な街づくりを目指す。

- 最新技術やサービス導入で最先端の街づくり
  - ・ 次世代モビリティで村内移動
  - ・ 自動運転など実証実験フィールドの提供、既存機関との連携
  - ・ EV充電器
  - ・ リムジンサービス
  - ・ 自動車メンテのガレージサービス
  
- 学術研究、技術交流機能の強化
  - ・ 三浦半島の学術研究機関と連携
  - ・ ビジネスインキュ研究センター
  - ・ 防災とリサイクルを含む「食ラボ」
  
- 「健康村」の創出
  - ・ ペット用施設でアニマルセラピー
  - ・ 「道の駅」等で高齢者の働く場
  - ・ まちの健康増進センター
  - ・ CCRC（高齢者が医療介護を必要とする時に、継続的なケアを受けられることができるような地域づくり）
  - ・ シルバー産業のリビングラボ

(参考) 「基本的な方向性」と「強化すべき機能」「取組例」などとの関連

4.1 強化すべき機能					
		(1) 国際交流拠点 機能	(2) 自然環境を生か した交流機能	(3) 三浦半島における 周遊拠点機能	(4) 魅力創出・ 発信機能
3. 基 本 的 な 方 向 性	① 生活環境・ 交流人口	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語教育を核とした「国際村」確立</li> <li>・「国際村」意識の高揚</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然を活用したレクリエーション</li> <li>・自然環境と芸術の共生</li> <li>・自然環境の活用</li> <li>・アクティブスポーツ設備の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通の拠点として地域価値を向上</li> <li>・ゴルフ場との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新技術やサービス導入で最先端の街づくり</li> <li>・「健康村」の創出</li> <li>・学術研究、技術交流機能の強化</li> </ul>
	② 半島全体 の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・MICE機能の強化による国際交流拠点としての充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三浦半島内の他の自然環境活用の取組みとの連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三浦半島魅力最大化プロジェクトに位置付けられた交流人口増加策との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学術研究、技術交流機能の強化</li> </ul>
	③ 区市町の 政策連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・MICE機能の強化による国際交流拠点としての充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未病改善施策との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三浦半島魅力最大化プロジェクトに位置付けられた交流人口増加策との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三浦半島魅力最大化プロジェクトの「三浦半島ライフ」での魅力向上策や、SDGs、未病改善などの取組みとの連携</li> </ul>
	④ センター 活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・MICE誘致の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流人口の増加に伴う宿泊需要への対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流人口の増加に伴う宿泊需要への対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新技術やサービス導入で最先端の街づくり</li> <li>・「健康村」の創出</li> <li>・学術研究、技術交流機能の強化</li> </ul>

## (参考) 課題、コンセプト、具体案の整理

### 1. 既定計画による湘南国際村の理念と村づくり

- (1) **基本構想** <目指すすがた> = 「基本構想」 S60 「地域社会の発展に寄与する多目的な滞在型の**国際交流拠点**」
- (2) **基本計画** <構想を実現するための具体的な考え方(方針)> = 「基本計画」 S63、「改訂基本計画」 H18
- ・ A地区の方針 = 「国際交流拠点として**将来にわたって持続していくようなまちづくり**を目指す」 (機能) 研究・研修 居住 商業・業務 教育・健康・福祉 公共公益
  - ・ B C地区の方針 = 「**緑の再生と保全**を図り、村内居住者や来村者が**憩い、安らぎ、学び、交流する/健康を育む場**としての緑の空間の創造と、  
緑陰滞在型の国際交流拠点としての機能向上を高める」 (機能) 防災 交流

### 2. 現行の基本計画の検証および湘南国際村の現状・

#### 2.1 現行の基本計画の検証

##### <現行の基本計画の進捗状況のチェック>

- (1) A地区には福祉施設等も立地
- (2) B C地区は植樹活動、里山保全活動等も進展

#### 2.2 湘南国際村の現状

- |                |                      |
|----------------|----------------------|
| (1) 人口減少 (A地区) | (6) 来村者数 (A地区、B C地区) |
| (2) 高齢化 (A地区)  | (7) 湘南国際村センター利用者数    |
| (3) 交通 (A地区)   | (8) B C地区の活用 (B C地区) |
| (4) 商業施設 (A地区) | (9) 情報発信 (A地区、B C地区) |
| (5) 医療機関 (A地区) | (10) 村内外の連携 (A地区)    |

<住民の声>

「終の棲家」  
「若い世代が暮らせる街」  
にするため、  
どう取り組むか

#### 2.3 湘南国際村が抱える課題

##### (1) 共通の課題

- ① 生活環境の向上 (2.2「現状」の(1)～(5)に関連)
- ② 交流人口の増加 (2.2「現状」の(6)～(8)に関連)
- ③ 三浦半島全体との連携 (2.2「現状」の(10)に関連)
- ④ 神奈川県、横須賀市、葉山町の政策との連携 (2.2「現状」の(10)に関連)
- ⑤ 中核施設の活性化 (2.2「現状」の(7)(9)(10)に関連)

##### (2) 地区別の課題

- ・ A地区：生活環境の改善、国際交流拠点機能の強化
- ・ B C地区：自然環境を生かした交流機能の強化

<時間軸>

【中長期的】  
オリンピック以降  
【短期的】  
オリンピックまで

### 3. 基本的な方向性(ビジョン・コンセプト) … 2.3(1)「共通の課題」を解決するための、「基本的な方向性」

- |  |                  |
|--|------------------|
| ①「生活環境の向上」と「交流人口の増加」一住む人、訪れる人、働く人を大事に－ | ③県・市・町の政策の連携     |
| ②三浦半島全体の活性化                            | ④湘南国際村センターの更なる活用 |

#### 4. 強化すべき機能と具体例（施策・コンテンツ）

4.1 強化すべき機能 ・ ・ 2.3の「課題」（共通・地区別）を踏まえ、3.の「基本的な方向性」を実現するための、「強化すべき機能」

##### (1) 国際交流拠点機能

(主にA地区)

##### (2) 自然環境を生かした交流機能

(主にBC地区)

##### (3) 三浦半島における周遊拠点機能

(主にA地区)

##### (4) 魅力創出・発信機能

(A地区、BC地区)

#### 4.2 具体的な取組例（施策・コンテンツ）

**インターナショナルスクールなど、外国語教育を核とした「国際村」確立**

- ・インターナショナルスクール誘致
- ・外国語のテーマパーク
- ・外国語村として学生ショートステイ
- ・国内で外国語体験（ミニ留学）

##### MICE 機能強化による国際交流拠点としての充実

- ・アフターコンベンション機能
- ・ナイトタイムエコノミー機能
- ・横浜・横須賀地区等との連携機能

##### 「国際村」意識の高揚

- ・外国語表記でのサイン看板

##### 自然を活用したレクリエーション

- ・星空学校、天体観測キャンプ
- ・キャンプ、収穫体験できる林間学校
- ・ウォーキングコースの整備
- ・大楠山を中心としたハイキング、公園など、三浦半島回遊観光の一環として施設を整備。既存設備との宿泊型回遊観光も（花の公園、芝生広場、フィールドアスレチック等）
- ・フォレスト・アドベンチャー施設（自然体験型レクリエーション）
- ・グランピング施設
- ・「陸」と「海」のスポーツの連携による別荘地のように余暇を過ごす場

##### 自然環境と芸術の共生

- ・自然+アート+健康の野外散策美術館
- ・アーティスト in レジデンス（宿泊棟も活用）
- ・アートを通じた生涯学習

##### 自然環境の活用

- ・ドッグランを併設した芝生公園
- ・イヤホン装着型による野外映画館
- ・屋外コンサート会場
- ・鳥類を呼ぶための計画的な植樹
- ・自然樹木葬と市民農園で里山整備
- ・日本版ギブ・キッズ・ザ・ワールド
- ・週末裏山解放区

##### 交通の拠点として地域価値を向上

- ・ヘリポート設置（緊急医療、観光、外国VIP待遇）
- ・「自転車の聖地」ブランド化（自転車の駅）
- ・ゲートウェイ型「道の駅」での交流、情報発信（モーダルコネクト）

##### ゴルフ場との連携

- ・ゴルフ場隣接のショートステイ型リゾートマンション
- ・ショップとゴルフツアーでリゾートヴィレッジ
- ・世界トップクラスのホテルを誘致し、超一流のゴルフ場リゾート&スパを目指す

##### アクティブスポーツ設備の整備

- ・フィールドアスレチック施設
- ・スケードボード施設
- ・BMX コース施設
- ・サッカーグラウンド、フットサル
- ・スポーツクラブ

##### 最新技術やサービス導入で最先端の街づくり

- ・次世代モビリティで村内移動
- ・自動運転など実証実験フィールドの提供、既存機関との連携
- ・EV充電器
- ・リムジンサービス
- ・自動車メンテのガレージサービス

##### 学術研究、技術交流機能の強化

- ・三浦半島の学術研究機関と連携
- ・「ビジネスインキュ研究センター」
- ・防災とリサイクルを含む「食ラボ」

##### 「健康村」の創出

- ・ペット用施設でアニマルセラピー
- ・「道の駅」等で高齢者の働く場
- ・まちの健康増進センター
- ・CCRC
- ・シルバー産業のリビングラボ

##### 未病改善施策との連携

- ・森林ヨガ
- ・未病の情報発信拠点ビオトピアとの連携

#### 5. 活性化の実現に向けた取組みの進め方

##### (1) 進め方

- ・民間活力の活用

##### (2) 事業スケジュール

- ・基本計画改訂後のスケジュール

## 5. 活性化の実現に向けた取組みの進め方

### (1) 進め方

県は、横須賀市、葉山町と協議の上、民間と連携し、民間のアイデアや活力を活用して進める。

具体化に当たっては、住民や入村機関の意見をしっかりと聞いた上で進める。

### (2) 事業スケジュール

基本計画の改訂後、地元市町の地区計画変更手続きを進める。また、民間事業者のアイデアや活力を積極的に活用していくため、事業公募に向けた調整、検討等を計画的に進め、平成33年度以降の事業化着手を目指す。

なお、このスケジュールによらず、短期的に取り組むことが可能な活性化策については、先行して取り組む。

年 度	取組内容
平成30年度	基本計画の改訂（県）
平成31年度	地区計画の変更手続き（市町） 事業者の動向等の調査、 事業公募方針の検討（県）
平成32年度	上記方針決定、事業者の公募（県）
平成33年度以降	事業化に着手（事業者）



## 湘南国際村活性化検討委員会 開催経過

回数	日時	主な議題、内容
第1回	平成30年3月29日	今後の検討の進め方等
第2回	平成30年4月23日	湘南国際村の現状と課題等 (湘南国際村センター及びA地区、 BC地区を視察)
第3回	平成30年5月9日	各委員から具体案を提案
第4回	平成30年5月24日	各委員の具体案の整理
第5回	平成30年7月18日	住民等との意見交換の結果 課題、コンセプト、具体案の整理 住民アンケート
第6回	平成30年8月31日	住民アンケート結果
第7回	平成30年10月30日	湘南国際村の活性化について
第8回	平成30年11月20日	住民等との意見交換の結果 湘南国際村の活性化について
第9回	平成31年1月30日	検討委員会報告(案)

## 湘南国際村活性化検討委員会 委員名簿

(学識者)

(敬称略)

氏 名	所属・役職等
高橋 毅	(一財) 電力中央研究所 研究アドバイザー
秋山 美紀	慶応義塾大学環境情報学部 教授
伊藤 隆治	和光大学経済経営学部経済学科 教授

(有識者)

氏 名	所属・役職等
野崎 秀則	株式会社オリエタルコンサルタンツ 代表取締役社長
倉橋 隆行	株式会社シー・エフ・ネッツ 代表取締役
河井 保博	日経BP総研 クリーンテックラボ所長
矢野 覚	株式会社横浜銀行 地域戦略部長
島 由紀子	京浜急行電鉄株式会社 生活事業創造本部 三浦半島事業開発部長
宮下 真衣子	株式会社リクルートホールディングス 経営企画本部コーポレートコミュニケーションPR部

(商工団体・行政機関)

氏 名	所属・役職等
菊池 匡文	横須賀商工会議所専務理事
石井 宏一	葉山町商工会事務局長
鵜飼 進	横須賀市政策推進部政策推進課長
町田 伸	葉山町政策財政部政策課長

(住民代表)

氏 名	所属・役職等
大阿久 誠	湘南国際村自治会 会長

## 湘南国際村活性化検討委員会 設置要綱

### (設置目的)

第1条 湘南国際村の活性化及び持続的な発展に向けて、三浦半島全体の中での位置付け、県・横須賀市・葉山町の政策との連携、民間活力の活用等の観点から今後の湘南国際村のあり方を検討するため、湘南国際村活性化検討委員会（以下「検討委員会」という。）を設置する。

### (所掌事務)

第2条 検討委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 湘南国際村のあり方の検討
- (2) その他前条の目的を達成するために必要と認められる事項

### (組織)

第3条 検討委員会は、別表に掲げる委員をもって構成する。

2 委員の任期は、検討委員会設置の日から平成31年3月31日までとする。

### (委員長)

第4条 検討委員会に、委員長1人を置く。

- 2 委員長は、構成員の互選により定める。
- 3 委員長は、検討委員会における意見を取りまとめる。
- 4 委員長が不在のときは、あらかじめ委員長が指名する者が代理する。

### (会議)

第5条 検討委員会は、委員長が招集する。

2 委員長は、必要があると認めるときは、検討委員会に委員以外の者の出席を求めることができる。

### (事務局)

第6条 検討委員会の事務局は、神奈川県政策局自治振興部地域政策課に置く。

### (雑則)

第7条 この要綱に定めるもののほか、検討委員会の運営等に関し必要な事項は、別に定める。

### 附 則

この規約は、平成30年3月29日から施行する。

この規約は、平成30年8月31日から施行する。

(別表)

学識者 (まちづくり関係)
学識者 (まちづくり関係)
学識者 (まちづくり関係)
有識者 (コンサルタント)
有識者 (コンサルタント)
有識者 (メディア部門)
有識者 (金融部門)
有識者 (交通部門)
有識者 (観光部門)
横須賀商工会議所
葉山町商工会
横須賀市
葉山町
住民代表

(事務局)

神奈川県
------